

茅野市 DX 推進協議会会長 様

茅野市 DX 外部評価委員会委員長
百瀬 真希

茅野市 DX 外部評価委員会（提案・報告）書（第1回）

茅野市 DX 推進協議会から依頼がありました以下の DX 事業について、検討を行った結果を報告します。

1. 事業名	防災 DX（避難所入所受付の DX 化）
2. 対象サービス等	避難所チェックインシステム
3. 事業に対する市民意見	
<u>（メリット）</u> ・ 避難所受付時間の短縮 ・ 災害時の迅速な情報収集と災害対応に寄与 ・ 避難所受付時の混雑緩和 ・ 必要な情報がオンラインで確認可能 ・ 区（民生委員等）の負担軽減 <u>（課題）</u> ・ 必要な情報が網羅されていること ・ 自主避難者は活用できない ・ 使える人が限定的（子ども、高齢者、デジタルデバイド層等への配慮が必要） ・ デバイス/電力/通信環境への不安感 ・ 地域性の差によるシステムの必要性のばらつき ・ 事前の情報登録の簡略化 ・ 行政の強制力が必要 ・ 地元（市内/居住地区）に居ないときの活用	
4. システムに関する改善・提案事項	
・ 避難者が必要とする情報の発信/可視化（家族の避難状況/備蓄状況など） ・ 平時におけるシステムでの情報取得方法の確保 ・ 様々な市民に対応できる、顔認証（生体認証）/LINE/QR コードなど多様なチェックイン手法の確保 ・ 自主避難者の避難状況の把握システム ・ 手書き情報のデジタル化 ・ 専用デバイス/電源/通信環境の確保 ・ 情報の事前周知の徹底（システム導入/避難所体制など）	

5. その他防災に関する提案事項等
・手書きによるチェックイン手法の存続 ・住民名簿の作成 ・地域ニーズの把握 ・庁内/学校など、部署間/組織間の連携 ・平時におけるアナログでの市民情報の収集 ・諏訪 6 市町村の自治体間連携
6. 総括
避難所チェックインシステムの導入については、概ね賛成と考える。 当該システムの導入により、避難所の状況（空き情報、備蓄情報等）が広く周知されることで、避難者の自主避難活動を促すことができるとともに、発災時に避難者（市民）が迅速に安全な避難を行えることを期待する。
7. 付帯事項
・導入時点で予定された機能のみで完結しないよう、拡張性及び持続性を確保したものとして設計すること。特に、チェックイン手法の多様化や洗練化はもちろんのこと、避難所運営に止まらない、他の災害情報の共有と把握に資する持続性を有すること。 ・上記改善・提案事項等の実現を含め、ユーザーにより一層求められるシステムとなるよう定期的に改善を検討し、実施すること。 ・アナログ手法（避難者カードなど）によるチェックイン手続きを併用することを前提として設計すること。 ・防災分野における既存の仕組みや体制などのアナログ面においても、当該システムとの親和性を考え、それぞれの長所と弱点を補い合うような運用の改善と最適化を同時に設計することが望ましい。 ・法律の規制などで現状対応が難しい事象がある場合でも（個人情報の取得など）、十分に検討を行いつつ、将来の法改正などに備えて十分な検討を行うこと。また、現状で対応できる方法の工夫もできる限り行うべき。

※詳細別紙